

2016年1月9日(土) 会場：谷中の家(東京都台東区谷中3-17-11)

わたしの、終わらない旅

ゲスト：坂田雅子監督

フランス、マーシャル諸島、カザフスタン、そして福島——
核に翻弄される人々を訪ね、兵器と原発という二面性をもつ核エネルギーの本質を探る



(製作協力・配給：株式会社シグロ／日本／2014年／78分)

きっかけは母が遺した『聞いてください』と題する一冊の本。母は70年代から原発を問い続けていた。福島第一原発の事故後、改めて母の数十年に及ぶ反原発運動の意味に気づいた坂田監督は、核エネルギーの歴史をたどる旅に出る。フランスのラ・アーグの核再処理施設の対岸の島に暮らす姉を訪ね、大規模な核実験が繰り返し行われたマーシャル諸島で故郷を追われた島の人々に出会い、カザフスタンで旧ソ連による核実験で汚染された大地で生きる人々をみつめる。母と自分自身の想いを重ねて、核に翻弄される人々を記録した渾身のドキュメンタリー。

1 回目上映13:00 (開場12:30) / 2 回目上映15:30 (開場15:00) / 監督トーク17:00 / 交流カフェ18:00

[参加費] 上映：1000円 トーク：500円 / 学生300円 交流カフェ：500円 (軽食+ワンドリンク付)

要予約

●坂田雅子監督・プロフィール●

ドキュメンタリー映画監督。1948年、長野県生まれ。京都大学卒業。写真通信社勤務および経営を経て、2003年、夫の死をきっかけに枯葉剤についての映画製作を決意。ベトナムと米国で枯葉剤の被害者やその家族、ベトナム帰還兵、科学者等にインタビュー取材した『花はどこへいった』(2007年)で毎日ドキュメンタリー賞、パリ国際環境映画祭特別賞、アースビジョン審査員賞など受賞。2011年、NHKのETV特集「枯葉剤の傷痕を見つめて～アメリカ・ベトナム 次世代からの問いかけ」制作。2作目『沈黙の春を生きて』(2011年)は仏・ヴァレンシエンヌ映画祭にて批評家賞、観客賞を受賞。



ラ・アーグの核燃料再処理工場(仏)には今も日本の使用済み核燃料から抽出されたプルトニウムが保管されている。



米国による核実験のためにビキニ島民は故郷を追われた。実験後70年近くたつ今もビキニ島は居住不可能。



カザフスタン・セミパラチンスクは旧ソ連のかつての主要な核実験場。470回の実験で150万人が影響を受けた。

～この映画のきっかけとなった、坂田監督の母、坂田静子さんが遺した本から～

『聞いてください』 No.1 [原子力発電について] (1977年5月)

じっとしていられない気持ちから、手作りの小さな刷り物をお手元にお届けします。不慣れで字も揃わず、お読みになりにくいですが、どうぞ大目に見て下さいますように。

二月の終わり頃、英仏海峡の小さな島で夫と子供と暮らしている娘から、次のようなショッキングな便りが来ました。それによると、「対岸のラ・アーグ(仏)に原子力発電の再処理工場があって、そこから洩れる放射能で牛乳や海産物が汚染されて被害が出始めている上に、近く大拡張の予定との事で、しかもそこでは日本の原発の廃棄物の大部分が再処理される予定との事です。(中略)日本ではこういう事を知っているのでしょうか。反対している人もいますと聞きました。資料があったら送って下さい。」というものでした。(後略)

【会場】 谷中の家 (台東区谷中3-17-11)

メトロ千代田線千駄木駅・JR日暮里駅・JR西日暮里駅下車徒歩7分。よみせ通り、延命地蔵を東へ入る、2筋目を南へ入って東側2軒目。

【予約方法】 以下いずれかの方法で予約してください。

1. 申込みフォーム

【1回目上映】 <http://kokucheese.com/event/index/360442/>

【2回目上映・トーク】 <http://kokucheese.com/event/index/360443/>

* 学生およびトーク不参加の方はメッセージ欄にその旨ご記入ください。

【交流カフェ】 <http://kokucheese.com/event/index/360445/>

* 上映と交流カフェは別々にお申込みが必要です。

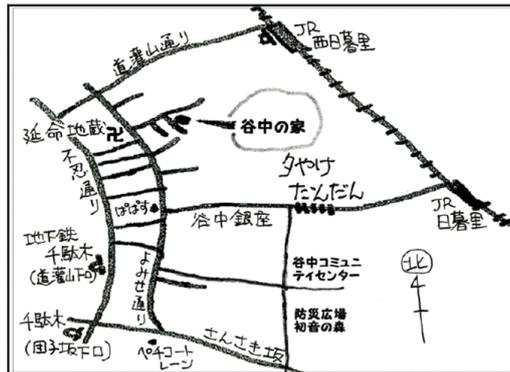
2. メール eigasai@jtgt.info

* 件名を「月1原発映画祭申込み」として、参加者氏名(複数お申し込みの場合は全員のお名前をお書きください)、参加内容(1回目上映、2回目上映、トーク、交流カフェ)を明記してください。

3. 電話 090-1265-0097 (植松)、または090-9492-0075 (西川)

* トークおよび交流カフェは上映会に参加される方が優先となります。

* キャンセルされる場合は必ず事前にご連絡ください。



●「月1原発映画の会」について●

「月1原発映画の会」では、原発に関連した映画・映像を上映し、併せて交流カフェを開催、映画の監督や制作者などのゲストを迎えてお話を聞いたり、意見交換・情報交換をしたり、日ごろの思いや疑問を語り合ったりする交流の場を提供しています。原発に関することを知りたい、考えたい、話したいという方、「反対」「賛成」「やむを得ない」・・・いろいろな考えの方が気軽に参加できる会をめざしています。

原則として隔月に公開上映会、その間の月はスタッフ勉強試写会を開いています(スタッフ募集中)。

★今後の開催案内・これまでの開催内容

「地域から未来をつくる・ひがし広場 (<http://www.jtgt.info/>)」のサイトで開催案内を随時掲載しています。これまでの開催内容については、トップページのメニュー「月1原発映画祭」のページの右側にある「これまでの映画祭/交流カフェ」から、開催レポートやYouTube動画をご覧いただけます。

【動画がアップされているゲスト・トーク】

- 2014.6.7 松村直登(『原発20キロ圏内に生きる男』出演)・藍原寛子(ジャーナリスト) 対談
- 2014.7.5 イアン・トーマス・アッシュ(『A2-B-C』監督) トーク
- 2014.8.2 ブラディープ・インドゥルカー(『ハイ・パワー』監督) トーク
- 2014.10.4 小倉志郎(『元原発技術者と一緒に原発PR映画を観る』) トーク
- 2015.1.10 白石草(『チェルノブイリ 28年目の子どもたち』制作・OurPlanet-TV主宰) トーク
- 2015.3.7 石本恵美(『原発附和雷同』監督) + 長井公一・みさ子(福島県須賀川市在住) トーク
- 2015.5.9 島田恵(『福島 六ヶ所 未来への伝言』監督) トーク

★開催案内メールをご希望の方・お問い合わせ

メールにて eigasai@jtgt.info へご連絡ください。または電話090-1265-0097(植松)まで。